

原生生物の究極の生き様 「光共生」 の一生を分子から理解する

高木 悠花（東京大学 大気海洋研究所）

海の生き物には、藻類を体内に取り込み、栄養をやりとりして互いに利益を得る「光共生」と呼ばれる現象がある。光共生により、宿主は栄養の乏しい海でも生き延びてきた。これまでの研究から、浮遊性有孔虫（単細胞の動物プランクトン）では、最終的に共生藻を消化するにもかかわらず、種ごとに強いパートナーシップがあることが分かっている。本研究では、光共生がどのように始まり、保たれ、終わるのかを、遺伝子の働きに注目して明らかにする。



「光共生」の一生を分子から解明

—光共生がどのように成立し 維持され 終焉を迎えるのか？—

